## ＝荒尾職業訓練所＝
# 仲間が晴れて卒業
## 懇談会で意見・要望続出

一、二〇〇名の離職者で荒尾職業訓練所に昨年十一月に入所した人たちが、二十七日三池では第一回の卒業生として巣立つた。職対部ではこの機会に、現在訓練所で技術の習得にはげんでいる組合員と懇談をもち、とんこはともに努力して全員が就職できるようにがんばることを強く話合つた。

荒尾職業訓練所第二回卒業式は二十七日午前十時から同訓練所で行なわれた。

今回の卒業生は自動車整備、建設機械、製図各科の二三名で、卒業までにほとんどの人が国家試験の免許をとつて就職もきまり、六カ月の期間を終えて巣立つていつた。

三池の離職者も、同訓練所で四〇名が技術の習得を終え、第二回の卒業生として新出発を待なつた。本部就職対策部では古賀職対部長前畑部員が卒業式に出席したが、式終了後、在所生と懇談を行ない現在までの就職対策の経過などを主にして話したが、訓練所入所の組合員としての要望や意見などが続々と出され、このような懇の機会をこんごはぜひ月に二回ぐらいはもつてもらいたいとの強い要望があつた。

### 労相の完全就職の確約はどう実現しているか

いつたん訓練所に入れば毎日そちらの方へ通うため、組合と離れたような気持にかられ、その点からも不安や要望も強いようである。その主なものをみると(1)組合は自分たちが訓練所に入つたので、もう就職のあつせんはしないのではないか(2)職業相談所と縁が切れたのではなかろうか(3)その他、などである。

懇談会では古賀部長から職対の経過が説明されたが、それについて意見、要望が続出、みんなの就職に対する真剣な態度を反映させていた。

問　荒尾の官有地を拡下げてもらい住宅を建設することになつているが、出来る見通しはあるのか。

答　古閑市長の協力態勢がない。だが、すでに政府との話し合いをもつているので、こんごは組合の手で個人割あてなどをおこない、官財と交渉し、官財と売買契約をすることにしている。

問　住宅資金は個人で建てる場合は国家から補償を受けられるか

答　現在のところ個人にはない。労働金庫も出しているが一定の条件がなければならない。

問　石田労相は就職と住宅の完全保障を確約したがどうなつているか。

答　名古屋の労働者住宅入居は十一月完成するが、三池離職者の入居は善処すると確約させた。

東京にも雇用＋進軍業団が来年度から五〇〇戸つくることになつており、それも交渉しているが、いま五〇人の線が出ている。なお強力に折衝をつづけている北九州には仕事は多いが家がない。これについても新たな要求をしたいと考えている。

### できるだけ大企業へ

問　訓練所を出ても中小企業にほとんど就職しているが、それでは生活の安定はできない。大企業への就職を開拓してもらいたい。それでもできないなら公務員へでもあつせんしてもらいたい。この点を労働大臣にしつかり要求してもらいたい。

訓練所を卒業しても就職できない人がある。それにもかかわらず失業保険は切れる。労相は完全に就職保障を約束したのだから、その保障として失業保険の延長なども要求してもらいたいなどなど、質問と要望はつぎつぎにつづいた。

○現在一番苦しいのは五十才以上の人だが、この人たちの就職を果して政府は責任をもつのか。また、大牟田、荒尾からどうしても離れられない人について組合ではどういう考えをもつているのか。

○自分は外来だが「みいけ」の配布がない。訓練所に何部か配つてもらえないか。

○訓練所に通つているので、離職者総会にも出席できない。だからどうなつているのか分らない何らかの方法でわれわれにも報告をしてもらいたい。

○職対部との連絡もとれないし、求人関係も分らない、何とか連絡とつてほしい。

○こんどやる県外就職者との家族懇談会などにも出たいが、訓練所にいるため出られない。何とかやれる方法を考えてほしい。

○この懇談会はこんども出来るだけ多く持つてもらいたい。

○労働大臣にたいするつき上げはなおいつそうやつてもらいたい

○現地の求人条件と向うへ行つての条件が大分くいちがいがありそのため帰つてくる人もある。こんなことがないように何とか方法を考えてもらいたい。

○みんな生活がキツいので主婦たちは内職しているが、組合からの内職あつせんは考えていないのか。

○就職まきわにはどこかの工場に実習に行きたい、そのへんを話合つてもらえないか。

○訓練所を卒業して就職できなかつたときは、三川の相談所には行けないのか。いつぺんいつたら断られた。

などが主なものであつた。

みんな非常に真剣で、この日の懇談会も昼食のパンをかじりながらつづけられた。

職対部としてはこんど、訓練所内の組合員とは十分に連絡をとり合いながら、みんなの要望が十分に実現できるように努力したいと語つている。

卒業式　終えて　修業の　六カ月

# 反動立法粉砕へ
## 春闘第五次統一行動　笹林で総決起大会

春闘第五次統一行動は五月二十五日、全国で行動がはじめられた。炭労では企業整備反対、石炭政策変更、賃金獲得、最賃制確立、ILO条約批准（関係国内法改悪反対もふくまれる）とくに政治的暴力行為防止法案について政府は、その本質の徹底とともに、政府、自民党および民社党に抗議と撤回要求をおくることなどで、全山が時間外職場大会の抗議行動をくりひろげた。

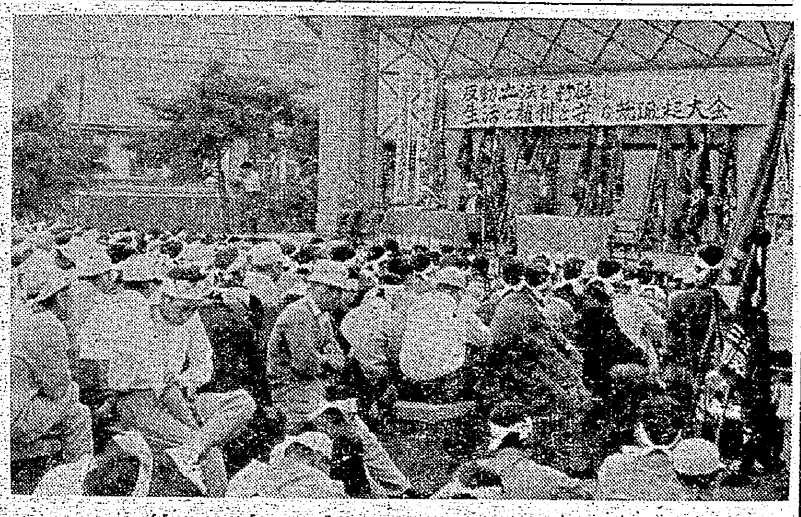
なお、この大会で企闘、賃闘中の各山激励、会社への抗議も行なった。

### 各支部で職場大会

三池労組ではこの日、各支部で昼休後いつせいに職場大会をひらき執行部からILO条約批准、関係国内法改悪についての詳細な説明がおこなわれ、とくにいま問題となつている「政治的暴力行為防止法案」について詳しい説明がおこなわれ、今後のたたかいについての意志結集をはかつた。

なお、三川支部では職場大会にかえて、この日社会主義協会から講師を招き午後四時から団結館で「政暴法」についての解説と、その裏にひそむ政府、自民党のたくらみが詳しく説明され、この参加者がさらに地域、職場でこの日聞いた話をひろげてゆき、行動を組織することになつた。

また、職場大会では雄労連さん下筌尻、日別、雄別各単組、高松、杵島、大正各労組あて激励を発した。



笹林公園に集つた三千の組合員

会社側に抗議文を打電した。

### 笹林公園に三千名

この日大牟田地区では、午後五時十分から「反動立法を粉砕し生活と権利を守る総決起大会」を、公務員共闘が主体となつて笹林公園でひらいた。

会場には公務員共闘のほか大地評各組合が参加、三千名が結集した大会は社共両党代表、大地評代表のメッセージをうけ、自治労県連からの経過報告につづき、市教組三池労組から意見発表が行なわれて、ILO条約の即時批准と、関係国内法を改悪し、ILO批准の骨ぬきをたくらむ自民党、政府の意図をふんさいすることがつよく打ち出された。

緊急動議として市職連から「小児マヒから子供を守るための政府への要望決議」、全労働から「不当処分反対決議」がそれぞれ出されともに満場一致で採択された。

また、大会はILO条約批准、国内法改悪反対、政暴法反対で池田首相、労働、文部大臣へ抗議電を打つことになり、そしてこのたたかいをつづけて活躍している社共両党へ激励電を打つことが満場一致決定された。

## 奥苑さん（三川）一位
### メーデー写真コンクール

大地評メーデー写真コンクールは応募作品の審査を行なつていたがつぎのように入選者が決定した。なお、作品展は今月末まで松屋五階廊下でひらく。

※第一種（キヤビネ版）

一位　奥苑　隆誉（三池労組三川支部）
二位　山崎　正雄（三池労組）
三位　大石　照雄（電化労組）
入選　中尾　勝治（国鉄労組）
〃　河野　千寿（市職労組）
〃　〃
〃　大石　照雄（電化労組）

※第二種（六ツ切以上）

一位　猿渡　守（市教組）
二位　大洲　勉（合成労組）
三位　渋田　隆（三池労組宮浦支部）
入選　猿渡　守（市教組）
〃　古賀　実（合成労組）
〃　永　二男（三池労組三川支部）
〃　福島　正人（国鉄労組）

入選者の賞品授与は五月三十一日午後四時から大地評で行なうことになつている。

## カンパで仲間を助け合う

給料盗難で職場の人が話はずむこと古くなるが、分会員の一人が災禍にあつたのをみかねて分会全員でカンパし、助け合つたというたくましい友愛と固い団結をしめした話題がある。

話は去る五月十五日の金受け日に四山社宅の長島近義さん（カツペ工）は給料を受取つて帰宅した。給料はさつそく奥さんに手渡したが、奥さんはその中から五、三〇〇円をとり、残りはタンスにしまつて買物に出かけたのである。買物を終えて奥さんが帰宅してみると、タンスにしまつておいた金がなくなつていた。苦しい暮らしをのりこえて稼いだ十月分の給料、そのほとんどをこんなことでなくしたことは、長島さん一家にとつては大きなショックであつた。おまけに毎月やりくりしている家計である。

この話が職場分会（三十四名）に誰れいうとなく伝わつたところ、こんなときこそ助け合いたとカンパが提唱され、各人一〇〇円カンパをさつそく長島さんに贈つたのである。

なかまたちの暖かい友情に長島さんはすつかり感激しているが、こういう一つひとつの行動が、組織をささえ、団結をつよめているのである。

## 囲碁・将棋大会（宮浦）

サークル結成後始めて宮浦支部囲碁・将棋サークルでは結成ご初の大会を、五月二十一日支部会議室で行なつた。当日の成績つぎの通り。

【囲碁の部】

（一組）
一等　福島（三級）二等鶴（二級）三等高野（一級）

（二組）
一等吉川（六級）二等牟田口（五級）三等稲益（四級）

（三組）
一等平田（十級）二等坂本（八級）三等西村（十級）

【将棋の部】

一等西（十級）二等新開（初段）三等宮本（八級）四等吉賀（十四級）五等平山（七級）

このサークル結成のきつかけとなつたのは、精神文化の発展、これに手がけるとともに、このサークルをもとにして、ますます組合員相互の友愛と団結を深め、組合運動を推進してゆこうということにあつた。

サークルでは結成とともに会長、役員を選出、まつたく自主的な運営を行なつているが、なお月二回には囲碁、将棋大会をひらき、目的達成のために努力することになつている。

## 山ノ上を揺がす解雇返上デモ

（S三十五年一月五日）

門司の労働運動史上にかつてない規模のピケと警官動員で、全世界の耳目をさらつた「三二三日の三池闘争」は、私にとつてもかつてない異常な体験の連続で、この一年にこそ、文字通り私の精も根も出じつくしたといえる。

この闘争のなまなましい記憶はまず、三十五年一月五日の「指名解雇伏返上デモ」にはじまる。

午前十時、本社裏広場を埋めた組合員、家族三万の眼字には、名状しがたい憤まんの情がみなぎつていた。大部分の職場活動家を含む千二百九十七名にたいし、会社側はまつたく不当な解雇状を送つてきており、きょう五日は、その解雇状をたたき返すための家族総くるみのデモであつた。

本社正・裏門と山ノ上門前を確保するために、われらの行動隊が昨夜来徹夜でキビキビ行動し、私もその後方活動で車庫にいこう間もなくかけずりまわり、いま見渡すかぎり白はちまきの三万の大群衆に囲まれながら「クビ切り撤回まで断固たたかいぬく」という宮川組合長のあいさつを、群衆のひとりひとりの心の底に送りとどける。

つづいて灰原書記長、野口炭労書記長が激励して、憎悪の対象になつている生首を、山ノ上への大デモの先頭にたつ。

山ノ上では、巨大なたき火を中心に、団結刃、栗木、若林のハリコの生首をかついだ大集団が、はげしい気勢をみせながら、闘争デモにいる。するとその一団を取り囲みながら、別の一隊が気勢を上げ、「おとなの童話」

## "はたかぜ"物語（9）

赤旗の波でたたき、つき倒き、突き崩す。そうして栗木の表情が崩れると、デモ隊のなかから嵐のような喚声がわきあがる。

そのとき、喚声に応えるように空の一角からすさまじい爆音がちかづく。解雇状を積んだヘリコプタ1である。デモ隊の中心で突然爆竹があがる。喚声があがる。それがしずまると私の背中で伸びあがりながら宮川組合長が、「みなさん、いよいよわれわれの解雇状を、只今、ヘリコプターで、空からたたき返えします」というと、拍手と喚声がよめき、「返えすぞツ、返えすぞツ」と叫ぶ主婦の声が涙でかすれる。

ヘリコプタ1が屋根すれすれに近づくと、同乗した山田法対部長の黒い顔がパツキリ見え、その手が黄色い袋を逆さにふる。すると今まで組合員の胸をさいなんだ解雇状が、無数の紙片となつて山ノ上の敵の根城にふりそそいでいく。

喚声に混つた感動の涙声。しかし、これで胸のしこりがきえて、あらたな闘ら意がもりあがる。

さて、ヘリコプタ1の爆音が消えると、たき火をかこんで、またデモの列が廻る廻る。つつしし、たたかう力をたえた、たくましい群が！

（述＝岡本、記＝加藤）